

The logo for KUBOTEK, featuring the word "KUBOTEK" in a bold, black, sans-serif font. The letter "O" is replaced by a solid blue circle. The background is a light blue gradient with abstract, flowing white and light blue lines and circular patterns.

KUBOTEK

平成27年3月期 決算報告

クボテック株式会社

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成27年3月期)	前期 (平成26年3月期)	来期予想 (平成28年3月期)
売上高	3,462	2,491	3,380
営業利益	119 (3.4%)	△ 457 (△18.4%)	155 (4.6%)
経常利益	111 (3.2%)	△ 448 (△18.0%)	135 (4.0%)
当期純利益	535 (15.5%)	△ 263 (△10.6%)	125 (3.7%)

- ◎当期の損益は、売上高が前期に比べ、画像処理外観検査装置、3DCADシステムで増加し、また固定費削減などの対策によって損益構造の改善が進み、営業損益、経常損益は黒字となりました。また、新大阪営業所の土地建物の売却により当期純利益は前期に比べ大幅に増加しました。
- ◎海外子会社では、KUBOTEK KOREAは大手FPDメーカー向けの売上が減少し減益となりました。Kubotek USAは売上が伸長し、固定費の削減効果もあり損益は改善しました。
- ◎来期も、FPDメーカーの設備投資は継続するものと予想されますが、その動向は流動的と考えております。事業構造の改革と新規事業・新製品の開発を推進し、事業基盤の強化に努めてまいります。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成27年3月期)		前期 (平成26年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,292	32.6	1,034	28.4
売上債権	1,134	28.6	597	16.4
たな卸資産	532	13.4	538	14.8
その他	8	0.2	△ 51	△ 1.4
固定資産	997	25.2	1,522	41.8
資産計	3,963	100.0	3,641	100.0
流動負債	2,288	57.7	2,292	62.9
固定負債	409	10.3	617	17.0
負債計	2,697	68.1	2,909	79.9
資本金	1,951	49.2	1,951	53.6
利益剰余金	△ 633	△ 16.0	△ 1,168	△ 32.1
その他	△ 51	△ 1.3	△ 51	△ 1.4
純資産計	1,266	31.9	731	20.1
負債及び純資産計	3,963	100.0	3,641	100.0

◎総資産は、前期末に比べ現預金、売上債権などで8億円増加し、固定資産の売却などで5億円減少し、約40億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ借入金の返済などで約2億円減少し、27億円となりました。

◎純資産は、純利益の計上から5億円増加し、約13億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当 期 (平成27年3月期)		前 期 (平成26年3月期)	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
日 本	2,633	76.1	1,355	54.4
米 国	498	14.4	408	16.4
韓 国	329	9.5	726	29.2
計	3,462	100.0	2,491	100.0
うち海外	2,191	63.3	1,608	64.6

◎日本では、主力製品である画像処理外観検査装置が、国内外の大手液晶メーカーからの受注が好調で当初計画を上回り、また前期に比べ増収となりました。

さらに、3DCADシステムも、2Dと融合した製品の拡販を図るなど、前期に比べ増収となりました。

◎米国では、固定費の削減と開発・販売体制を整備する中で、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が堅調で、前期に比べ増収となりました。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連部品の販売が低調で減収となりました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成27年3月期)	前期 (平成26年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	6	△ 149
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	914	302
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 693	△ 468
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	29	32
V.現金及び現金同等物の増加額	257	△ 282
VI.現金及び現金同等物の期首残高	942	1,224
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,199	942

- ◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純利益の計上や仕入債務の増加による収入があったものの売上債権の増加により、収入は6百万円となりました。
- ◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の開発投資で1億1千万円の支出と営業所の土地売却による10億4千万円の収入で、9億1千万円の収入となりました。
- ◎財務活動によるキャッシュ・フローは、借入返済等により6億9千万円の支出となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成27年3月期)	前期 (平成26年3月期)
受注高	2,499	1,563
受注残高	886	875

◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、スマートフォンなどの製品需要が堅調で FPDメーカーの設備投資の一部にも前向きな動きがみられ、国内をはじめ中国など海外の受注も増加しました。

◎来期は、機能性フィルム、タッチパネル向けなど従来の液晶以外の検査装置の開発・販売を強化し、新規顧客の開拓を進めると共に、成長が見込まれる中国市場に注力し、受注を確保する方針であります。

まとめ

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、スマートフォンやタブレット端末などの製品市場は堅調に推移し、大手FPDメーカーの設備投資は、一部で前向きな動きが見られました。
- ◎当期は、前期と比べ主力の画像処理外観検査装置や、3DCADシステムの販売が好調で4期ぶりに営業利益、経常利益を計上することが出来ました。また新大阪営業所の土地建物を売却し、当期利益は大幅に増加しました。
- ◎新規事業の次世代フライホイール蓄電システムの開発は、4年目を迎え順調に進んでおります。独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの助成も継続しており、早期の事業化を図る方針です。
- ◎当社グループは、引き続き資産の圧縮と現有資産の効率的な利用を図り、固定経費の見直しなどで損益構造の改善に努めております。一方で新規事業と新製品の開発を進め、事業構造を早期に転換し、収益性の回復と販売拡大により、事業基盤の再構築を図る所存です。